

第2次鉾田市総合計画

「いのち」と「暮らし」の先進都市

自然を尊び、農を誇り、喜びを生みだす
21世紀のまち 鉾田



平成29年3月
茨城県鉾田市

第2次鉾田市総合計画の策定

市民協働のまちづくりを目指して

今回策定しました「第2次鉾田市総合計画」は、第1次計画に続く計画として市政全般の施策の方向性、重要課題等を取りまとめ、計画の根幹である「まちの将来像」、「いのち」と「くらし」の先進都市について引き続き継承し、「まちづくりの視点」に新たに「^{つむぐ}紡」という視点を設定しました。

これは、「まちの将来像」を達成するため、「まちづくりの視点」である自然との共生を表す「緑」、地域の個性を生かす「縁」、市民との協働を表す「絆」に、地方創生を推進するための「^{つむぐ}紡」を加えることで、豊かな自然環境、地域の特徴、市民一人ひとりの想いを紡ぎあわせ、様々な施策に全市が一丸となって横断的に取り組み、「まち・ひと・しごと創生」（地方創生）による地域の活性化を目指すことといたしました。

これまで本市では、行政単独での解決が困難な問題に対して、地域や関係者の皆様のご協力を得ながら、市民協働による市政運営を目指してきたところではございますが、今後、より一層のご参画を頂くことで、引き続き市民の皆様とともに、さらに10年先の鉾田市を創ってまいりたいと考えております。

基本構想

「まちの将来像」と考え方

本計画では、地方創生という時代を迎えながらも、本市行政が、今後も公共福祉の増進に寄与し、安全安心な市民生活を守っていくことを使命とするため、引き続き「まちの将来像」を設定するものとします。

なお、本構想における将来像は、行政運営の継続性を考慮するとともに、行政・市民・地域・団体等が同じ目標を共有し、相互理解のもとでそれぞれの役割と責務を担いながらまちづくりを実践する「自助・共助・公助」の協働のまちづくりを推進していくため、従来よりの将来像を次のとおり、継続するものとします。

まちの将来像

「いのち」と「くらし」の先進都市

自然を尊び、農を誇り、喜びを生みだす

21世紀のまち 鉾田

設定理由

四季折々に様々な姿を見せる豊かな自然は、私たちに安らぎと癒しを与える貴重な資源であり、暮らしの土台を成す「いのち」の源です。

私たちは、この「いのち」の恵みを受けながら“農”という生活文化をはぐくみ、「くらし」を支えてきました。また、“農”は“食”という「いのち」の糧をもたらし、私たちは健やかな心身をはぐくんできました。

「いのち」が「くらし」を支え、「くらし」が「いのち」をはぐくむ、こうした営みの連鎖こそが私たちの生活の原点であり、普遍的で理想のまちの姿であると言えます。

21世紀という変化の大きい時代において、農をはぐくみ、人をはぐくみ、そして健康をはぐくんできた“はぐくむ力”を原動力に、自然との共生と歴史・文化という地域の“宝物”を大切にしながら、私たちが互いに手を取り合い、生きる喜びと生きがいに満ちた暮らしができるまち。それが、本市の目指す21世紀の先進都市の姿であると考えます。

まちづくりの視点と5つの基本目標の設定

まちづくりの視点

「まちの将来像」を達成するにあたって、まちづくりの「視点」として、前構想に引き続き3つのキーワードを視点とし、さらに3つの視点をつむぎ、地方創生を推進するために新たな視点を設定します。

まちづくりの
視点



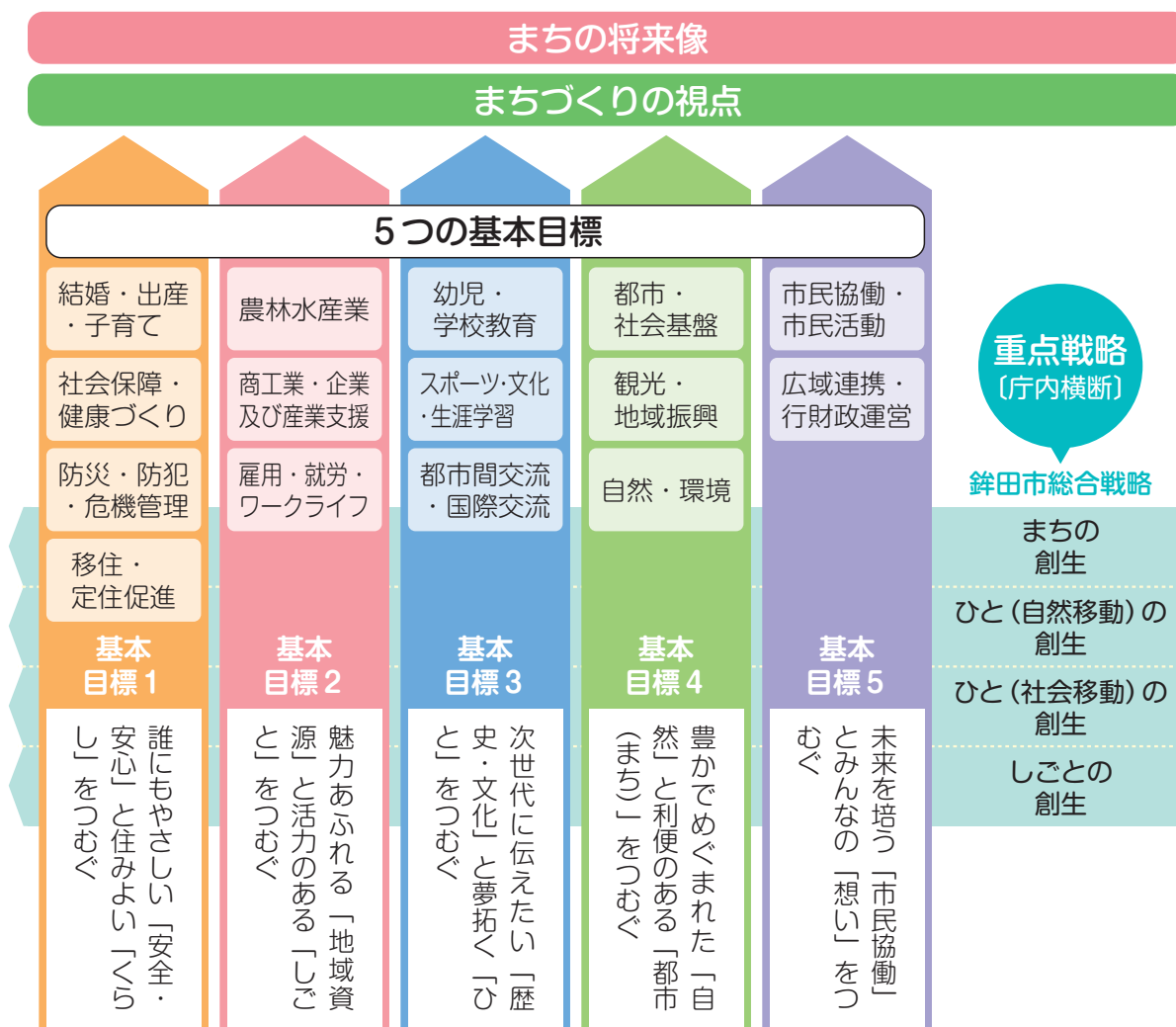
を 紡ぐ まちづくり

「紡」の
追加理由

地域の特徴、市民一人ひとりの想い、行政の様々な施策と、緑・縁・絆を紡ぎあわせることで全市が一丸となって、「まち・ひと・しごと」(地方創生)による地域活性化を目指します。

「まちの将来像」を実現するための考え方

「まちの将来像」を実現するための5つの基本目標を設定します。さらに、基本目標体系とともに、銚田市総合戦略に記載のある施策群について、地方創生に係る庁内横断型の施策群として別途体系化し、本計画における重点戦略に設定します。



誰にもやさしい「安全・安心」と 住みよい「暮らし」をつむぐ

目標の基本方針

年齢や性別、障害の有無や家庭環境に影響されることなく、誰もが、地域で生まれ、育ち、住み続けることのできるまちづくりは、市民が良好かつ良質な社会生活を営む上での不可欠な要素です。

本市は市民一人ひとりが健康でより良い暮らしにつなげるために、保健・医療・福祉サービスの充実を図り、結婚・妊娠・出産・子育てを総合的に支援し、切れ目のない介護・医療連携の確立による総合的な福祉サービスの充実を図ります。

また、自然災害に対する減災防災、交通安全や消費者犯罪等の防犯など、市民・地域の日常生活を守り、安全安心な地域社会をつくるための危機管理をより一層徹底します。

これらの施策が連携することにより、「住みよく暮らしやすい銚田市」へのまちづくりを行い、市民の定住(転出抑制)、市外からの移住(転入増加)を図ります。

目標達成の成果指標

指標項目	基準値(平成28年度)	目標値(平成33年度)
出生数(銚田市)	302人(平成27年)	350人
婚姻数(銚田市)	186組(平成27年)	210組
生活習慣病死亡者数(人口10万に当り) (生活習慣病死亡者数÷人口×10万) ※生活習慣病：がん、心疾患、高血圧性疾患、脳血管疾患	750.0人(平成26年)	700人

基本施策の体系

基本施策 1

結婚・出産・子育て

主要施策1 結婚対策

主要施策2 子育て環境

主要施策3 児童・家庭支援

基本施策 2

社会保障・健康づくり

主要施策1 高齢者サービス

主要施策2 障害者サービス

主要施策3 社会福祉

主要施策4 健康・保健サービス及び医療体制

基本施策 3

防災・防犯・危機管理

主要施策1 交通・防犯対策

主要施策2 防災・減災対策

主要施策3 危機管理体制

基本施策 4

移住・定住促進

主要施策1 移住・定住促進

魅力あふれる「地域資源」と 活力のある「しごと」をつむぐ

目標の基本方針

人を集める力に富み、地域社会に安定と潤いを与える地場産業の活性化は、活力のある社会を生み、まち・ひと・しごとの好循環の原動力となります。

本市の農業先進地としての高い農業技術を活かし、質の高い農畜産物の生産、付加価値向上及び海外を含めた販路拡大等の施策を展開することで儲かる農業の推進、鉾田市農業の魅力を発信します。

また、茨城空港や東関東自動車道水戸線の開通によるインパクトを活かし、産業基盤整備と連動した商工業の活性化を図り、力強く調和のとれた産業振興を進めます。

こうした産業・地域経済の活性化によって、地元雇用を生み出し就労機会の増加、創出を図ります。

目標達成の成果指標

指標項目	基準値（平成28年度）	目標値（平成33年度）
農産物出荷額（農林水産省「市町村別農業算出額」）	689億円（平成26年）	750億円
市内民営事業所に就業する従業者数 （経済センサス活動調査）	12,538人（平成23年）	14,000人

基本施策の体系

基本施策
1

農林水産業

- 主要施策 1 農林業振興
- 主要施策 2 水産業振興
- 主要施策 3 畜産業振興

基本施策
2

商工業・企業誘致
及び産業支援

- 主要施策 1 商工業振興
- 主要施策 2 企業誘致及び産業支援

基本施策
3

雇用・就労・ワークライフ

- 主要施策 1 雇用・就労
- 主要施策 2 ワークライフ

次世代に伝えたい「歴史・文化」と 夢拓く「ひと」をつむぐ

目標の基本方針

市民・地域が有する「知識」「経験」を地域の文化として次世代に継承していくためには、将来の鉾田を担う世代に地域の「魅力」をしっかりと伝えていくことが必要です。

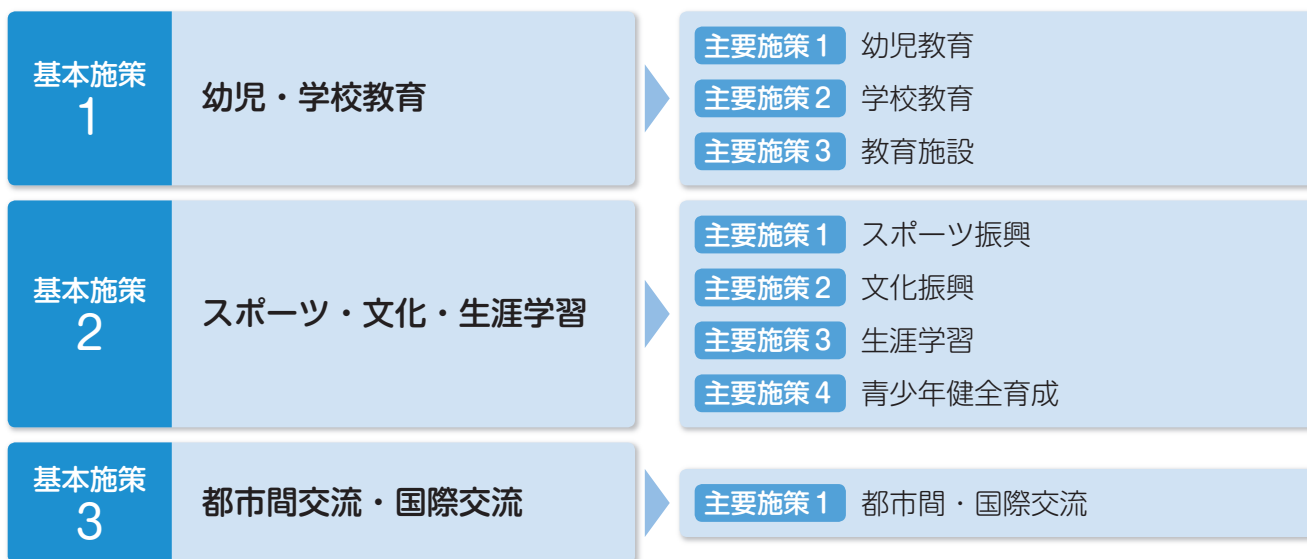
本市では教育の質の向上を目指して、子どもたちが切磋琢磨し、社会性と生きる力を育むことのできる教育環境を整えるため、小学校再編計画に基づき、統合小学校の整備を推進します。

また、(仮称)鉾田市民交流館を拠点として、文化振興を図るとともに誰もが生涯を通じて「学ぶ」ことの大切さを認識し、共に成長していく新たなコミュニティを形成し、地域資源を活用した学習環境づくりと人材育成を推進します。さらには、2019年の茨城国体開催や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催をひとつの契機として、子どもから高齢者まで多くの市民が年齢や体力に応じ、気軽にスポーツに親しめる環境を整備します。

目標達成の成果指標

指標項目	基準値 (平成28年度)	目標値 (平成33年度)
学校が楽しいと回答した児童 (市内児童アンケート)	74.2%	75.0%
学校が楽しいと回答した生徒 (市内生徒アンケート)	62.8%	64.0%
文化・生涯学習の機会に関する満足度 (市民意識アンケート)	3.6% (平成27年度)	40%

基本施策の体系



豊かでめぐまれた「自然」と 利便のある「都市(まち)」をつむぐ

目標の基本方針

本市は合併以来、生活利便の地域格差の是正、利便向上を企図し、計画的な都市整備を着実に推進してきました。引き続き、長期的な展望に基づく計画的な土地利用のもと、道路・交通体系をはじめとする都市基盤の着実な整備・充実を図ります。

また、ラムサール条約の登録湿地である涸沼や北浦、鹿島灘をはじめとした貴重な自然環境と農・工・商を有機的に連携することにより交流人口の増加を図るとともに、地域におけるイベントや行事を支援し、恵まれた自然環境を生かした地域振興を図ります。

そのために、自然と共生し、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型社会の形成に向けて、全市的な環境共生社会の推進に努めるとともに、本市の恵まれた自然環境を最大限に生かし、本市ならではのまちづくりに取り組みます。

これらの取り組みにより、将来にわたる「いのち」と「暮らし」を支える豊かな自然環境の継承と快適性・利便性を兼ね備える、誰もが安全で安心して暮らせる生活空間の実現を目指します。

目標達成の成果指標

指標項目	基準値(平成28年度)	目標値(平成33年度)
定住意向(市民意識アンケート調査)	72.9%(平成27年)	78.0%
観光入込客数(観光動態調査)	392,624人(平成27年度)	450,000人
汚水処理人口普及率(銚田市)	51.3%(平成27年)	62.0%

基本施策の体系

基本施策 1

都市・社会基盤

- 主要施策1 適正な土地利用の推進
- 主要施策2 道路体系の充実
- 主要施策3 上水道
- 主要施策4 下水道
- 主要施策5 住宅
- 主要施策6 公共交通

基本施策 2

観光・地域振興

- 主要施策1 観光振興
- 主要施策2 地域振興

基本施策 3

自然・環境

- 主要施策1 自然・環境
- 主要施策2 環境衛生
- 主要施策3 環境美化

未来を培う「市民協働」と みんなの「想い」をつむぐ

目標の基本方針

人口減少や少子高齢社会の中で、これからは周辺都市や関係機関等とも連携を深め、地域の総合力を高めるとともに、様々なパートナーと協働でまちづくりを行う必要があります。

また、まちづくりを推進する上では、行政・市民・地域・団体等が同じ目標を共有し、相互理解のもとでそれぞれの役割と責務を担いながらまちづくりを実践する「自助・共助・公助」の仕組みの確立が重要です。

さらに、本市行政においても市民活動の活性化とともに、効率的で質の高い行財政運営システムを構築する行財政改革に積極的に取り組みながら、市民と行政とが相互に信頼する協働のまちづくりを目指します。

目標達成の成果指標

指標項目	基準値（平成28年度）	目標値（平成33年度）
市民活動に参加したい人の割合（市民意識アンケート）	53.9%（平成27年度）	70.0%
財政健全化指標（将来負担比率）（鉾田市）	11.5（平成27年度）	50.0

基本施策の体系



第2次鉾田市総合計画

概要版

発行年月：平成29年3月

発行：鉾田市

編集：鉾田市 総務部 企画課

所在地：〒311-1592 茨城県鉾田市鉾田1444-1

電話：0291-33-2111（代表）

ファクス：0291-32-4443